

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400332		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホームとみおか (2F いこい)		
所在地	北海道函館市富岡1丁目51番20号		
自己評価作成日	平成27年1月16日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0191400332-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0191400332-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年2月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・近隣の児童館の子供達の慰問や児童館行事の参加また、近隣小学校との交流で児童の訪問もあり、グループホームでの生活や認知症の理解が得られるよう地域との交流を続けています。  
 ・設立当初より続けている「一日日記」はスタッフが毎日の様子を1ヵ月綴った文面を御家族もとても楽しみにされ読まれております。  
 ・外出行事のお花見会では、毎年ボランティアと御家族の参加で五稜郭タワーで昼食を一緒に摂られ公園のさくらの観賞を楽しまれています。  
 ・月2度の訪問診療や毎週1度の訪問看護による医療連携があり、訪問看護ステーションについては24時間体制で対応しています。また、病状により臨時往診もあり早期発見早期治療でご家族にも安心して載っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<本人と家族の絆を大切にした支援>**  
 毎月、家族等が来訪して要望や意向を話し合い、本人と一緒に外出や食事に出かけたり、日々の暮らしの特徴的な一日を「一日一行日記」で伝えるなど家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。また、津波や風水害等の自然災害時の避難方法や連絡手段など家族と話し合う機会を設け、そこでの意見を運営に反映するよう努めている。  
**<地域との交流及び連携>**  
 近隣小学校の生徒の慰問や児童館の子供たちとの交流、フラダンスや演芸等のボランティアの受け入れ、夏祭りを開催して地域の人々と交流を行ったり、津波や風水害等の自然災害時の対応について町内会役員や児童館館長、家族を交えて協力体制を話し合うなど地域との交流・連携に取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い易い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、玄関壁や廊下、各ユニットリビングの壁に掲示し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議、合同会議の際に話し合い日々の業務を通じて理念を共有しその実践に繋げている。	事業所独自の理念を見易い場所に掲示し、ユニット毎の会議や全体会議で話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童館の子供達の慰問や児童館の行事参加(夏祭りや御餅つき)、近隣小学校の訪問、ボランティアの受入、とみおか夏祭り開催と地域との交流関係を深めています。	近隣小学校の生徒の慰問や児童館の子供たちとの交流、津波や風水害等の自然災害時の対応について町内会役員や児童館館長、家族を交えて協力体制を話し合うなど地域との交流・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも自由に行っており、児童館の子供達との交流や近隣小学校との交流により子供達の訪問が増え家族へも理解を深めてもらう話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施しており、ご家族参加行事や活動の状況報告について具体的に意見交換し、サービス向上へと繋げています。	運営推進会議を年6回を目安に開催し、事業所の取り組み状況や行事予定など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から担当者や連絡を取り合い運営推進会議を通じて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務や相談・報告などで情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月の全体会議、ユニット会議と職員全員で身体拘束や高齢者虐待防止について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を全体会議やユニット会議で話し合い、正しく理解しており、高齢者虐待防止や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市役所主催の会議やホームでの毎日の申し送りや合同会議の場で、新聞記事や資料等で自分達のケア方法に問題はないか常に話題に挙げ身体拘束防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームで成年後見人制度を使用している方もおり、司法書士を招き勉強会を開くと共に、ご家族様には運営推進会議を通してご説明させて頂き、必要なご家族には、アドバイスや支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書、重要事項説明書の内容をご家族様に説明し理解・納得を得て捺印して頂いている。また、体調変化時の対応についても話し合いの場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に意見や苦情、要望等を直接言って頂けるよう働きかけ、また、玄関先に意見箱を設けたり運営推進会議では、区長、包括支援センター等・児童館館長の意見も聞き入れ改善に向け取り組んでいます。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように玄関に意見箱を設置している。また、家族の来訪が多く、来訪時に要望や意向を話し合い、それらを運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、ユニット会議と日常業務を通じて意見や要望、提案を聴く機会を設け運営に反映出来る様にしている。	職員の離職率は低く、継続したケアサービスをチームとして取り組んでいる。また、全体会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末の賞与、新年度に昇給等の見直し、労働時間の要望等、また年度内においても資格習得者については、給料段階を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内の掲示により、職員周知し参加出来る機会を確保し、欠席職員には研修内容をいつでも閲覧できる様にしている。また法人内では専門業者をお願いし介護トレーニングも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が積極的に参加出来る様シフトの調整や、また、参加時は積極的に同業者との交流や情報交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・御家族と面談し心配事、不安に思っている事等をアセスメントし、入居時には本人が安心した生活が出来る様関係作りにも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談時のアセスメントをしっかりと行い要望を聞き入れながら安心して暮らして頂ける様、敏速な対応で信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、医療機関、関係者等から情報収集し本人、ご家族が必要としている支援を見極め安心して生活出来る様対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭きやチラシ折り等を職員、他入居者様と一緒にを行う事で、コミュニケーションを図りより良い関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との連絡を常に密にし共に同じ方向性を持ち、ご家族関係を大切にしながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしていた友人、知人達又はペット等も自由に訪問出来る様支援している。	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族と一緒にの外出や食事、ドライブや紅葉見物など馴染みの場所へ出かける支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事や、ドライブ等また、毎日のアクティビティ等で入居者様同士が関わり合えるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族の対応が困難な時は相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族の思いや暮らし方の意向の把握に努めると共に、毎日の申し送りの中から本人の思いを把握し職員間で共有し、常にその人らしく生活が送れるよう支援している。	家族等が来訪する機会が多く、一人ひとりの希望や意向など話し合い、本人本位に支援できるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人、ご家族からの聞き取りにより、今までの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、コミュニケーションを通じて一日の過ごし方、心身状態等を把握し職員間で情報を共有しその日、その人が望む生活が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向も含め、毎日の申し送りを通して、ご本人がより良い生活を送れるよう介護計画を作成し支援している。	本人、家族の要望や意向、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンス、モニタリングで職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成記録し、毎日の申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有をし、ユニット会議時に個別のカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々必要性に対応出来る様、ホーム丸となり、情報を共有し支援やサービスに対して柔軟に対応出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館児童の訪問や近隣小学校児童の訪問。また、児童館行事の参加とボランティアではハワイアンやハーモニカ、歌、等を積極的に受け入れホームに来ていただき楽しんで暮らせる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられるよう支援している。が、他の医療機関受診の希望があれば適切に医療が受けれる様支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、定期的な往診や訪問看護、通院への支援で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴やケアの際に気付いた小さな変化もスタッフ内で共有し2週に1度の往診、週1度の訪問看護で相談し指示を仰いでいる。また食事量の変化や訴えなどに注意し、変化を見逃さない様徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者に対して情報提供をし、治療に専念できるよう支援している。また、ご家族と密に連絡をとり、退院に向けご本人の体調や、病状に合わせた支援が出来る様、病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望意向に添えるよう、早い段階からご本人、ご家族、主治医、事業所、病院関係者と話し合いを行い、事業所で出来ることを説明、理解して戴き方向性を決め支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら職員間で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に合わせた対応マニュアルをスタッフ全員が周知していると共に医療連携看護師、主治医に連絡を取り冷静に指示が聞き分けられるよう身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会の訓練では、日頃の疑問や緊急時の対応など、ホームの構造や入居者様の状況に対応する疑問点についても解消し全スタッフが不安なく対応できるよう強化を図っている。	消防署の協力のもと、年2回昼夜間を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。また、津波や風水害等の自然災害時の対応について町内会役員や児童館館長、家族を交えて協力体制を話し合っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは言葉遣いや動作に配慮し、優しさが伝わるように対応している。親しみを込めつつも、誤解や疎外感を感じさせないように十分に気を付ける旨職員会議の席上でも確認している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を職員間で話し合い、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの際には選択的な質問をし、御本人の意向を汲み上げるように心がけ、利用者間での軋轢が生じないよう配慮もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の状況に対応し、グループでカルタ取りやトランプを行う日もあれば、一人で塗り絵を完成させ壁に飾ることもある。その日の気分や状況に可能な限り合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の寝ぐせ直しも希望者には手鏡、ブラシ、スプレーを手渡し、御自分で行って頂くこともある。カラフルな服を着用していると入居者様同士で評価し合っている様子も見受けられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節の旬の食材を献立に取り入れ、行事食にも工夫を凝らしている。咀嚼、嚥下機能に応じて、食事形態も常食、粥、刻み、ミキサー、トロミ等の形態で提供している。職員と共に食卓を囲むことは入居者の楽しみとなっている。	季節に合わせた旬な食材の提供や家族と一緒にの外食支援など食事が楽しみなものになるよう支援している。また、一人ひとりの力を活かしながら、嗜好や体調に合わせ食事の準備や後片付けなど支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方は間食も含めて小まめに摂取し偏りの出ないように工夫している。水分の少ない方も糖分などに配慮しつつ熱いお茶、水、ジュース等好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌ブラシを使用し、舌苔状態を観察しケアを行っている。また、歯ブラシが使用できない方は、歯磨きティッシュを使用し個々の状況に合わせた口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して時間誘導したり、発するサインを見逃さずに誘導して、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足がちな方には、声掛けをし一緒に体操を行ったり、廊下の往復などさりげなく誘導し楽しみながら身体を動かしていただく様工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を予定しているが、身体汚染やタイミングなどに応じて支援している。浴室は常に清潔を保ち、ゆったり入浴が出来るよう言葉かけにも配慮している。入浴時の懐メロ歌を楽しみにしている方もいらっしゃる様支援しています。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて柔軟な入浴支援をしている。また、安全に配慮した体制づくりを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	発汗の多い方はタオルを使用し小まめに交換したり、口呼吸には居室の加湿に気を付けている。日中の臥床時間は限定し、夜間ぐっすり入眠出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嚥下の状態により、トロミを付けるなどの支援をしている。服薬の調整指示が医師からあった場合には、その後の状況観察をしっかり伝え適切な投薬がされるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に洋裁や編み物をされたいた方は作業中に思い出話や過去の作品について語られる事も有る。また、ほつれを直していただいた時など、仕事に感謝される事が張り合いに繋がっている方もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて花見、紅葉ドライブを実施。近隣の児童館行事への参加や見学など、入居者様の希望や身体状況に応じて外出支援をしている。家族との外出や日光浴など出来るだけ戸外へ出かけられるよう工夫している。	家族と協力して一緒に外出やレストランでの食事会に出かけたり、花見や夏祭り見物、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、散歩や外気浴など一人ひとりのその日の希望に沿った支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居様は殆んどおらず、ホームとご家族で管理し買い物をされているが、希望される入居者様にはスタッフ同行で一緒に近隣の店へ買い物の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な方からの電話連絡があった時は、取次を行っています。また、スタッフが代理で電話を掛け御本人に受話器を渡し対話が出来の様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節感のある作品や飾りを掲示し、入居者様は思い出の写真や作品に囲まれ、廊下で立ち止まって見入っている事もしばしばである。リビングでは換気と採光、音量に配慮し快適に過せる様工夫している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間からは五稜郭タワーや函館山が眺められ、家族と一緒にの行事参加の写真の掲示など季節感や生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よくおしゃべりされる方はTVから離れたソファ席で、TVが好きな方はテレビに近いソファで、独りを好む方はテーブル席を開放するなど個々の居場所を作る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人にとって使い慣れた家具や身の周りの物を持参していただき、家族の写真や思い出の品などを自由に持ち込み安心して過せる居室作りを工夫している。動物やお花が好きな方には趣味に合わせたカレンダーを用意する事もある。	居室には、身の回りの品や使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれたり、趣味に合わせた居室づくりをして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解らなくなった時には、標識を確認して戴き誘導する。混乱の原因を作らないよう、いつも同じトイレへ誘導し場所を把握して戴ける様支援している。		

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400332		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホームとみおか (3F いずみ)		
所在地	北海道函館市富岡1丁目51番20号		
自己評価作成日	平成27年1月16日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400332-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400332-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年2月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・近隣の児童館の子供達の慰問や児童館行事の参加また、近隣小学校との交流で児童の訪問もあり、グループホームでの生活や認知症の理解が得られるよう地域との交流を続けています。  
 ・設立当初より続けている「一行日記」はスタッフが毎日の様子を1ヵ月綴った文面を御家族もとても楽しみにされ読まれております。  
 ・外出行事のお花見会では、毎年ボランティアと御家族の参加で五稜郭タワーで昼食を一緒に摂られ公園のさくらの観賞を楽しまれています。  
 ・月2度の訪問診療や毎週1度の訪問看護による医療連携があり、訪問看護ステーションについては24時間体制で対応しています。また、病状により臨時往診もあり早期発見早期治療でご家族にも安心して載っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、玄関壁や廊下、各ユニットリビングの壁に掲示し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議、合同会議の際に話し合い日々の業務を通じて理念を共有しその実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童館の子供達の慰問や児童館の行事参加(夏祭りや御餅つき)、近隣小学校の訪問、ボランティアの受入、とみおか夏祭り開催と地域との交流関係を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも自由に行っており、児童館の子供達との交流や近隣小学校との交流により子供達の訪問が増え家族へも理解を深めてもらう話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施しており、ご家族参加行事や活動の状況報告について具体的に意見交換し、サービス向上へと繋げています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から担当者と連絡を取り合い運営推進会議を通じて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月の全体会議、ユニット会議と職員全員で身体拘束や高齢者虐待防止について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市役所主催の会議やホームでの毎日の申し送りや合同会議の場で、新聞記事や資料等で自分達のケア方法に問題はないか常に話題に挙げ身体拘束防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームで成年後見人制度を使用している方もおり、司法書士を招き勉強会を開くと共に、ご家族様には運営推進会議を通してご説明させて頂き、必要なご家族には、アドバイスや支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書、重要事項説明書の内容をご家族様に説明し理解・納得を得て捺印して頂いている。また、体調変化時の対応についても話し合いの場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に意見や苦情、要望等を直接言ってくれるよう働きかけ、また、玄関先に意見箱を設けたり運営推進会議では、区長、包括支援センター等・児童館館長の意見も聞き入れ改善に向け取り組んでいます。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、ユニット会議と日常業務を通じて意見や要望、提案を聴く機会を設け運営に反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末の賞与、新年度に昇給等の見直し、労働時間の要望等、また年度内においても資格習得者については、給料段階を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内の掲示により、職員周知し参加出来る機会を確保し、欠席職員には研修内容をいつでも閲覧できる様にしている。また法人内では専門業者をお願いし介護トレーニングも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が積極的に参加出来る様シフトの調整や、また、参加時は積極的に同業者との交流や情報交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・御家族と面談し心配事、不安に思っている事等をアセスメントし、入居時には本人が安心して生活が出来る様関係作りにも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談時のアセスメントをしっかりと行い要望を聞き入れながら安心して暮らして頂ける様、敏速な対応で信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、医療機関、関係者等から情報収集し本人、ご家族が必要としている支援を見極め安心して生活出来る様対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭きやチラシ折り等を職員、他入居者様と一緒にやる事で、コミュニケーションを図りより良い関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との連絡を常に密にし共に同じ方向性を持ち、ご家族関係を大切にしながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にして来た友人、知人達又はペット等も自由に訪問出来る様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事や、ドライブ等また、毎日のアクティビティ等で入居者様同士が関わり合えるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族の対応が困難な時は相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族の思いや暮らし方の意向の把握に努めると共に、毎日の申し送りの中から本人の思いを把握し職員間で共有し、常にその人らしく生活が送れるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人、ご家族からの聞き取りにより、今までの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、コミュニケーションを通じて一日の過ごし方、心身状態等を把握し職員間で情報を共有しその日、その人が望む生活が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向も含め、毎日の申し送りを通して、ご本人がより良い生活を送れるよう介護計画を作成し支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成記録し、毎日の申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有をし、ユニット会議時に個別のカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々必要性に対応出来る様、ホーム丸となり、情報を共有し支援やサービスに対して柔軟に対応出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館児童の訪問や近隣小学校児童の訪問。また、児童館行事の参加とボランティアではハワイアンやハーモニカ、歌、等を積極的に受け入れホームに来ていただき楽しんで暮らせる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられるよう支援している。が、他の医療機関受診の希望があれば適切に医療が受けれる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴やケアの際に気付いた小さな変化もスタッフ内で共有し2週に1度の往診、週1度の訪問看護で相談し指示を仰いでいる。また食事量の変化や訴えなどに注意し、変化を見逃さない様徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者に対して情報提供をし、治療に専念できるよう支援している。また、ご家族と密に連絡をとり、退院に向けご本人の体調や、病状に合わせた支援が出来る様、病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望意向に添えるよう、早い段階からご本人、ご家族、主治医、事業所、病院関係者と話し合いを行い、事業所で出来ることを説明、理解して戴き方向性を決め支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に合わせた対応マニュアルをスタッフ全員が周知していると共に医療連携看護師、主治医に連絡を取り冷静に指示が聞き分けられるよう身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会の訓練では、日頃の疑問や緊急時の対応など、ホームの構造や入居者様の状況に対応する疑問点についても解消し全スタッフが不安なく対応できるよう強化を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは言葉遣いや動作に配慮し、優しさが伝わるように対応している。親しみを込めつつも、誤解や疎外感を感じさせないように十分に気を付ける旨職員会議の席上でも確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの際には選択的な質問をし、御本人の意向を汲み上げるように心がけ、利用者間での軋轢が生じないよう配慮もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の状況に対応し、グループでカルタ取りやトランプを行う日もあれば、一人で塗り絵を完成させ壁に飾ることもある。その日の気分や状況に可能な限り合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の寝ぐせ直しも希望者には手鏡、ブラシ、スプレーを手渡し、御自分で行って頂くこともある。カラフルな服を着用していると入居者様同士で評価し合っている様子も見受けられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節の旬の食材を献立に取り入れ、行事食にも工夫を凝らしている。咀嚼、嚥下機能に応じて、食事形態も常食、粥、刻み、ミキサー、トロミ等の形態で提供している。職員と共に食卓を囲むことは入居者の楽しみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方は間食も含めて小まめに摂取し偏りの出ないように工夫している。水分の少ない方も糖分などに配慮しつつ熱いお茶、水、ジュース等好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌ブラシを使用し、舌苔状態を観察しケアを行っている。また、歯ブラシが使用できない方は、歯磨きティッシュを使用し個々の状況に合わせた口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して時間誘導したり、発するサインを見逃さずに誘導して、可能な限りトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足がちな方には、声掛けをし一緒に体操を行ったり、廊下の往復などさりげなく誘導し楽しみながら身体を動かしていただく様工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を予定しているが、身体汚染やタイミングなどに応じて支援している。浴室は常に清潔を保ち、ゆったり入浴が出来るよう言葉かけにも配慮している。入浴時の懐メロ歌を楽しみにしている方もいらっしや楽しく入浴出来る様支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	発汗の多い方はタオルを使用し小まめに交換したり、口呼吸には居室の加湿に気を付けている。日中の臥床時間は限定し、夜間ぐっすり入眠出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嚥下の状態により、トロミを付けるなどの支援をしている。服薬の調整指示が医師からあった場合には、その後の状況観察をしっかり伝え適切な投薬がされるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に洋裁や編み物をされたいた方は作業中に思い出話や過去の作品について語られる事も有る。また、ほつれを直していただいた時など、仕事に感謝される事が張り合いに繋がっている方もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて花見、紅葉ドライブを実施。近隣の児童館行事への参加や見学など、入居者様の希望や身体状況に応じて外出支援をしている。家族との外出や日光浴など出来るだけ戸外へ出かけられるよう工夫している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居様は殆んどおらず、ホームとご家族で管理し買い物をされているが、希望される入居者様にはスタッフ同行で一緒に近隣の店へ買い物の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な方からの電話連絡があった時は、取次を行っています。また、スタッフが代理で電話を掛け御本人に受話器を渡し対話出来る様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節感のある作品や飾りを掲示し、入居者様は思い出の写真や作品に囲まれ、廊下で立ち止まって見入っている事もしばしばである。リビングでは換気と採光、音量に配慮し快適に過せる様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よくおしゃべりされる方はTVから離れたソファ席で、TVが好きな方はテレビに近いソファで、独りを好む方はテーブル席を開放するなど個々の居場所を作る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人にとって使い慣れた家具や身の周りの物を持参していただき、家族の写真や思い出の品などを自由に持ち込み安心して過せる居室作りを工夫している。動物やお花が好きな方には趣味に合わせたカレンダーを用意する事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解らなくなった時には、標識を確認して戴き誘導する。混乱の原因を作らないよう、いつも同じトイレへ誘導し場所を把握して戴ける様支援している。		

### 目標達成計画

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	訪問面会には来れるが、ご家族と一緒に外出、外食等が中々出来ないための支援をしていきたい。	ホームでは気候に合わせてドライブや近隣外出、お買い物等をしてはいますが、ご家族との外出が限られているため、状態等の支援をしながら外出支援をしていきたい。	ご家族の状況や入居者様の体調等の支援と事前の打ち合わせをしながら支援していく。	1年
2	38	一人一人の状態を把握しバラバラな支援ではなく、スタッフ間で統一、共有をしながら支援していく。	その日の状況や、一人一人の状態を把握しスタッフ間で統一共有をしながら、支援していく。	日々違う状態や体調変化を毎日の申し送りで、夜勤体の状態把握と日中の様子をスタッフ間で統一し支援していく。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。